

沼津駅付近鉄道高架事業に関する有識者会議 報告書—概要版—

1 目的及び検討内容

- ・沼津駅付近鉄道高架事業に関する有識者会議(座長:森地 茂 政策研究大学院大学教授)は、沼津駅付近鉄道高架事業について、社会経済状況の変化を踏まえ、客観的かつ科学的見地から検証を行うことを目的に設置。
- ・会議では、「交通対策の視点」「物流の視点」「地域振興の視点」から、本事業の位置付けについて改めて検討。

2 事業経緯

- ・沼津市は、歴史的、地理的に県東部地域の拠点都市の役割を担ってきた。
- ・しかしながら、都心部は、南北市街地の分断と、慢性的な交通渋滞等といった課題を抱えており、周辺市町の都市化も進む中、拠点性や魅力が低下。
- ・鉄道高架事業は、土地区画整理事業等の駅周辺整備と一体的に実施することで、積年の課題の解消と新たな都心の創造を目指し、平成15年に事業着手。

3 事業の検証結果

- ・鉄道高架事業は、沼津市都心部が抱える交通の課題を抜本的に解消する最も有効な手法。
- ・鉄道高架事業により南北市街地が平面で一体化されるため、バリアフリーで人にやさしいまちづくりが可能。
- ・鉄道高架事業は、都心部に新たな都市空間を創出できる有効な手法であり、拠点性の向上に向けた新たなまちづくりが可能。
- ・費用便益分析においても、便益は費用を上回っており、社会経済的に合理性を有する。
- ・沼津市の鉄道貨物駅機能は、鉄道貨物の特徴や地域の発展、環境負荷の低減の観点などから今後も必要。
- ・貨物駅移転先について、改めて検証を行った結果、現計画の移転先と同一の地区が選定。

4 まとめ

- ・鉄道高架事業は、沼津市都心部が抱える交通環境や南北市街地分断の問題を抜本的に解消し、県東部地域の拠点都市を形成するために効果的な事業。
- ・貨物駅の移転先について、改めて検証した結果、現計画の妥当性を確認。
- ・貨物駅の近傍駅への統合や現計画の規模縮小は、様々な問題が生じる。しかしながら、これらの可能性についての議論を否定するものではない。
- ・沼津駅や沼津港を含む都心エリアについては、静岡駅周辺や浜松駅周辺にはない新たなコンセプトに基づき、県と市が市民の意見を十分に聴き、新しいライフスタイルを描きつつ、それを実現できるような積極的なまちづくりを進めるべき。
- ・沼津貨物駅の移転先は、周辺地域を含め地域の発展に資するものとならなければならない。このため、県と市が一体となって、関係機関の協力を得つつ、配置計画の見直しを含め、関係者間の徹底した合意形成を図ることが望まれる。この際、防災の視点も考慮すべき。
- ・合意形成にあたり、市民参画型計画策定手法であるパブリックインボルブメント(PI)方式を導入し、専門家の協力を得て、手続きを含めて議論することが必要。
- ・県は、時間管理概念を採り入れて、県東部地域にとってどのような選択がふさわしいのか判断すべき。